

第5回

常磐大学 社会安全政策研究所主催 公開シンポジウム

今、ウクライナの危機を考える

2022年5月31日(火) 16:20~17:50

常磐大学 センターホール

この戦争はなぜ起こったのか

国際社会として、日本としてできることは

ロシアによるウクライナ軍事侵攻は国際秩序を揺るがす大きな問題となっています。今回の事変について国連事務総長アントニオ・グテーレス氏は「世界の平和と安全にとって、ここ数年で最大の危機」と形容しています。ウクライナから地理的に遠く離れている日本でもその影響は不可避です。各種メディアを通じて現地の惨状が即時に私たちの視界に飛び込んでくる一方で、経済制裁の発動によりエネルギーや原材料の価格が高騰するなど、私たちの暮らしにも影響が重くのしかかっています。このシンポジウムではこの戦争がなぜ起こったのかを地政学的文脈に沿って理解し、この紛争の行く末を考え、国際社会として・日本として何ができるのか、その限界も含めて議論します。

登壇者

常磐短期大学 教授

安井 教浩

東欧・ロシア史の中のウクライナ

常磐大学 常任理事

渡部 茂己

「違法」な武力行使への国連による制裁と
個別国家(群)による制裁

常磐大学 特任教授

尾崎 久仁子

司法による対応の可能性と限界

モデレータ

常磐大学 学長

富田 敬子

配信URL

当日は会場より、オンラインにてライブ配信いたします

下記URL、もしくは右記QRコードを読み取っていただくと
配信ページにアクセスいただけます。当日は16時から配信開始予定です。



<https://youtu.be/FrOBR4KHAs8>



お問い合わせ



常磐大学 社会安全政策研究所

TEL: 029-232-2511 / FAX: 029-232-2861

E-mail: tissp@tokiwa.ac.jp